

<GTEC>通信

4技能をフル活用する日々の指導と アウトプット活動で、総合力を伸ばす

新潟県立燕中等教育学校

2005（平成17）年、「地域に立脚しつつ地球的規模で活躍できる人材」の育成を目指す中高一貫教育校として開校。「Be Global!」を校是に、目指す生徒像として「目的意識・学習意欲を持った生徒」「自己理解できる生徒」「グローバルな視点を持った生徒」を掲げる。平成24年「英語力を強化する指導改善の取り組み」拠点校、平成25年「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取り組み」拠点校。平成26年、SGHアソシエイト指定校となり、グローバルリーダー育成に資する教育の開発・実施に取り組んでいる。

基本情報：公立、共学、国際科学科

規模：1 学年80名

主な合格実績：国公立大は、東北大1名、千葉大1名、新潟大9名、静岡大1名、都留文科大1名をはじめ28名（2018年度入試、現役のみ）



取り組みのポイント

- 普段の授業から4技能をバランスよく伸ばす指導を行い、定期考査でもスピーキング力を問うパフォーマンステストを実施。
- 各学年で、レシテーションやスピーチコンテスト、ディベートなどのアウトプット活動を実施。
- 「GTEC」に向けたライティング講座でエッセイの基本型を身につける。

取り組みの背景

同校では開校当初より英語の4技能指導に力を入れてきたが、平成24年、25年に文科省事業の拠点校となったことをきっかけとして、さらなる強化を意識し始めることになる。英語科の西巻裕樹先生は、取り組み開始の経緯を次のように語る。

「英語科では以前から、『英語が使える人材の育成』を目標としてきましたが、文科省事業の拠点校となったことを契機に、改めて英語4技能をバランスよく高めていく重要性を意識するようになりました。そこで、CAN-DOリスト（資料1）を作成し、それまで行ってきた学年目標アウトプット活動もそれに盛り込むことで、6年間における技能ごとの学習到達目標を設定しました。段階的に

英語コミュニケーション能力や論理的思考力を高めていく指導体制を整えていったのです」

周知のように、2020年度入試から、従来のセンター試験に代わって「大学入学共通テスト」が導入される。同テストでは、大半の国公立大学が、同テストの英語と資格・検定試験の両方を受験するよう指定すると推測されるが、これまで英語4技能指導強化に取り組んできた同校にとっては追い風とも言えそうだ。

同校英語科の西巻先生は次のように語る。「各学年で行っているアウトプット活動は、大学入学共通テストや英語外部検定試験で問われる力を育むことができるものだと思います」

日々の授業と定期考査により、 4技能を統合的に強化

普段の授業では、4技能をバランスよく伸ばす指導を実践している。たとえば教科書を用いた授業の流れはこうだ。①語彙や文法の確認→②本文の音声をリスニングしたうえで内容理解ができているか確認→③音読しながら文法や内容上のポイントを確認→④ペアで音読したりシャドーイング・オーバーラッピングを行う→⑤教科書を閉じ、ペアで本文内容について1分程度でリテリング（内容の要約を簡単な英語で話す）。中学3年まではレシテーション（暗唱）も教科書の各ユニットで行っているという。

教科書に沿った授業では「英文和訳や文法の確認に時間がとられてスピーキングまで手が回らない」という課題が生じることもあるが、同校では、本文の和訳や文法・構文のポイントは授業前にプリントとして配布してあるため、授業中は生徒が集まる場だからこそできる活動などに時間を割くことができるという。「同じ英文を音読したり、聴いたり、話したりして異なる技能を使うなかで、正確な文法や本文の内容が生徒の中に自然とインプットされるのを期待しています」（西巻先生）

各レッスンの終わりや定期考査の前後の授業では、スピーキング力を問うパフォーマンステストを行い、成績にも反映させている（資料2）。特に定期考査前後のパフォーマンステストは、各学年で内容を決めて独自の方法で取り組んでおり、例えば、ある学年では、校内一斉放送で課題を渡し、答えをICレコーダーに一斉に吹き込んで提出させた。また、別の学年では、面接室に1人ずつ生徒を呼び、その場で課題を与えて話させた。「これまでのパフォーマンステストでは、ICレコーダーを生徒が忘れてきたり、テストのための放送音声を制作するのに負荷がかかったりするなど、運用面での課題も見られました。しかし、新入試への対応力を高める意味でも、問題点を解決するために今後も実施のやり方を検討していく予定です」

学年ごとのアウトプット活動で 表現力を段階的に育成

各学年では、授業で培った4技能の統合力を磨きながら、段階的に表現力を高められるよう、次のような学年の力量に応じたアウトプット活動を行っている。

●1年次……レシテーション

教科書巻末に掲載されているスピーチのレシテーション（ジェスチャーをつけながら感情を込めて英語の一節を暗唱すること）に全員が取り組む。「一文一文を自分のものにし、自然な発話のように表現することを目標としています」（西巻先生）

●2年次……スキット発表（資料3）

ペアワークでオリジナルスキットの作成と発表を行う。「教科書の英文を少しアレンジするだけでもよいと生徒には伝えていますが、オリジナルの設定を積極的に考えてスキットを書いてくる生徒が多いです」（高澤先生）

●3年次……プレゼンテーション

日本文化に関するプレゼンテーションを行う。パワーポイントのプレゼン資料を作成するところから生徒自身が行う。「4年次には全員参加によるオーストラリアでの海外研修があり、現地では生徒の代表者が日本文化について紹介するプレゼンテーションを行います。この準備には、3年生で作成したプレゼンテーションの原稿や資料を使いますが、各学年の取り組みが次の学年にもつながっていくように指導イメージを描いています」（西巻先生）

●4年次……スピーチ

海外研修での経験を踏まえて「海外経験を通じてどのような成長があったか」というテーマで一人ひとりがスピーチ原稿を書く。クラス予選を突破した生徒は、海外研修成果発表会における校内英語スピーチ大会で発表を行う。

●5年次……ディベート（資料4）

4年次の終わりからALTによるディベートの授業を受け、ディベートの型を段階的に身につけていく。

●6年次……自由なアウトプット活動

「Capstone Project」と題して生徒自身でアウトプット活動の内容を決めてチームごとに準備し、発表する。スピーチやプレゼンテーション、英語劇など内容は自由で、生徒たちはこれまでのアウトプット活動の総括としてこの機会をとらえ、創造性をフルに発揮して、英語を使って発表することを楽しみながら取り組んでいる。

1～5年生では定期的に各学年ともアウトプット活動・発表や評価の機会を設け、学年末には校内大会を行っている。流れはこうだ。事前にクラスごとに発表会を行い、代表者を選抜。代表者が校内大会に出場し、学年全員の前で発表する。「『クラス選抜を突破したい』という意欲を喚起できるよう、校内大会を設けています。1つ下の学年も観客として大会に参加しますが、自在に英語を操る上級生の姿を見て下級生は刺激を受け、学習意欲の向上にもつながっているようです」（西巻先生）

大学入学共通テストに向け、 即興的な課題を指導に盛り込む

大学入学共通テストを意識した4技能教科の取り組みも開始している。同テストを最初に受験することになる現4年生に対しては、その場で課題を与えて取り組ませる指導を2年ほど前から取り入れているという。「『GTEC』の出題スタイルなどを意識して、データやグラフを見て考えを述べる課題は、夏期講習などの機会に取り組ませています。また現4年生が3年生のときには、その場でペアを組ませて1人が修学旅行の思い出を英語で話し、もう1人はインタビューするという流れでスピーキングの練習を行いました。即興性を意識することで、新入試への対応力を高めようと考えています」（西巻先生）

学年ごとのアウトプット活動で 表現力を段階的に育成

同校では年1回、英語の運用能力を測るために「GTEC」を活用している。西巻先生は「2年前からは新たにスピーキングテストを導入し、新入試に向けてこれまでの指導の成果を検証するための材料に役立てています」と、4技能指導における「GTEC」の役割について話す。

受験に向けては、「GTEC」の対策講座を行ったり、「STEP UP ノート」の一部を宿題として課したりと、各先生の裁量によってさまざまな取り組みを行っている。なかでも西巻先生が有用性を感じているのはライティング対策だという。

「『GTEC』のエッセーライティング対策では、『主張→理由→具体例や想定反論→主張』というエッセイの基本型を繰り返し指導します。ライティングの型を一度身につけると、ディベートやスピーチなどスピーキング活動においても、構成を頭の中ですばやく組み立てられるようになります。『GTEC』の対策を行うことが4技能の育成につながっていると感じます」



（5年生のディベートの様子）

取り組みの成果と今後に向けて

平成24年度より4技能の強化を進めてきた同校では、さまざまな場面で取り組みの成果を実感しているという。西巻先生は、「校内のコンテストで上位入賞した生徒は新潟県主催のコンテストに出場するのですが、他校と比較すると本校の生徒は、本番であり緊張する様子を見せません。またオーストラリア研修でも、提携校に通う現地の高校生と気軽に会話を楽しんでいます。人前で抵抗なく英語を話せるのは、アウトプット活動を行ってきた成果といえるでしょう」

もちろん成果はスピーキング力の向上だけにとどまらない。「GTEC」の成績は、ほぼ毎年最高スコアを更新中だ。授業やアウトプット活動の積み重ねによって、4技能の力が総合的に伸びているということだろう。

ただし西巻先生は、「例えば授業中に下線部和訳をさせると詰まってしまうなど、従来型の入試で問われてきたような文法力が弱い生徒がみられます。こうした力も英語理解には必要なので、強化していきたいと考えています」と今後の課題を挙げる。また、TOEFL®などで問われるリーディングとリスニング、スピーキングなど複数の技能を同時に使って答える問題にも対応できるよう、統合力を伸ばす取り組みを行っていくことも考えている。



（【上】左から西巻先生、河内先生、川上先生、吉川先生、【下】左から高井先生、田辺先生、小野里先生、高澤先生）

【資料1】CAN-DOリスト

燕中等教育学校 英語科 6 ヵ年指導計画 Ver.6										
学年	Vocabulary, Reading	重点とまとめの活動(イベント)	Reading	Listening	Speaking	Writing	Presentation	Speech	Debate	目標資格
1	☐ Phonics を理解し、初見の単語を発音できる。 ☐ 発音記号を使って、初見の単語を発音できる。 ☐ 辞書を使って、単語の意味を調べ、文を作れる。 ☐ 基本語約 400 語を 4 技能で利用できる。 ☐ 見て意味が分かる語が約 600 語ある。 ☐ 語彙 250 語までで 1 万語読む。(Oxford Reading Tree Stage 1-6) ☐ 100WPM で読める。	☐ 正確さ ☐ 1 方向・準備可 ☐ 校内プレゼンテーション大会	☐ 教科書の本文を日本語に訳しながらであれば内容を理解できる。	☐ 短文を聞き、正確に書き取ることができる。	☐ 正確な発音で教科書の本文を暗唱できる。 ☐ 教科書 Speaking + の内容について ALT とやりとりをすることができる。	☐ 英語の表記方法や文法に則り、短文を正しく書ける。	☐ 身近なものについて 5 文程度の英語で発表することができる。	☐ 3 文程度で自己紹介をすることができる。	☐ 適切な接続詞を用いて、パラグラフで論理的に伝えることができる。	☐ 英検4級
2	☐ 基本語約 550 語を 4 技能で利用できる。 ☐ 見て意味が分かる語が約 1000 語ある。 ☐ 語彙 250 語までで 1 万語読む。(Oxford Reading Tree Stage 7-8) ☐ 110WPM で読める。	☐ 要点理解 ☐ 双方向・準備可・感情表現 ☐ 校内スピーチ大会	☐ 教科書の本文を読んで、内容の大筋を理解できる。	☐ 文章を聞き、要点を書き取ることができる。	☐ 教科書に出てくるキャラクター、その登場人物になりきって気持ちを込め、正しい発音で表現できる。	☐ 自分のことについて簡単な文章を書くことができる。	☐ 自分の好きなものについて、他者にわかりやすく伝えることができる。	☐ 適切な接続詞を用いて、パラグラフで論理的に伝えることができる。	☐ 日本語で、あるテーマに対して、賛成反対の立場を示し、理由を述べる。ことができる。	☐ 英検3級 ☐ GTEC G3
3	☐ 基本語約 600 語を 4 技能で利用できる。 ☐ 見て意味が分かる語が約 1300 語ある。 ☐ 語彙 250 語までで 1 万語読む。(Oxford Reading Tree Stage 9) ☐ 120WPM で読める。	☐ 自己表現 ☐ 双方向・即興性・自己表現 ☐ 校内プレゼンテーション大会 ☐ 異国語理解プレゼンテーションコンテスト	☐ 簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。	☐ ゆっくり話されれば、身近なことに関する話を理解することができる。	☐ 自分のことや身の回りのことについて短く、わかりやすく話せる。 ☐ 5枚程度のスライドを用いて、プレゼンテーションを行うことができる。	☐ 自分の意見や感想について簡単な文章を書くことができる。	☐ パワーポイントを用いて、自分の住んでいるところ、日本の文化を伝えることができる。	☐ 自分の意見・考えを理由とともにまとめた文章で発表することができる。	☐ 日本語で、基本的なディベートの流れをつかむことができる。	☐ GTEC G4 ☐ 英検準2級
4	☐ 基本語 1000 語を適切な技能において使用できる。 ☐ 見て意味が分かる語が約 3000 語ある。 ☐ 語彙 250 語までで 1 万語読む。(Penguin Readers Easy starts) ☐ 130WPM で読める。	☐ 論理性 ☐ 双方向・即興性・批判的思考 ☐ 校内スピーチ大会 ☐ 異国語理解プレゼンテーションコンテスト	☐ 教科書の本文の、1 つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。	☐ 教科書のリスニング活動に出てくる 10 文程度の長さの語や会話を聞いて大筋を理解できる。	☐ 与えられたテーマについて、自分の意見を論理的に述べる。ことができる。	☐ 与えられたテーマについて、自分の意見を論理的に書くことができる。	☐ 海外研修でのフィールドワークで調査した内容を発表することができる。	☐ 海外研修での成果を 5 分程度で発表することができる。	☐ 英語で、ディベートの基本的な流れを理解し、ミニディベートをすることができる。	☐ GTEC G5 ☐ 英検3級
5	☐ 基本語 2000 語を適切な技能において使用できる。 ☐ 見て意味が分かる語が約 4500 語ある。 ☐ 語彙 300 語までで 1 万語読む。(Penguin Readers Level 1) ☐ 140WPM で読める。	☐ 社会性 ☐ 双方向・即興性・時事知識 ☐ 校内ディベート大会 ☐ 異国語理解プレゼンテーションコンテスト ☐ 異国語理解プレゼンテーションコンテスト ☐ 異国ディベート大会	☐ 教科書の本文について、複数の段落間のつながりや、文章全体の構成を理解できる。	☐ 社会性の高い内容を聞いて理解することができる。	☐ 与えられたテーマについて、自分の意見を用いて効果的に述べる。ことができる。	☐ 目的に応じた形式で、100 語程度のパラグラフを書くことができる。	☐ 論理的に自分の考えを、コンテスト等で発表することができる。	☐ ディベートを通して、時事的な内容を、論理的に考えたり、批判的思考を持つことができる。	☐ GTEC G6	
6	☐ 基本語 3000 語を適切な技能において使用できる。 ☐ 見て意味が分かる語が約 6000 語ある。 ☐ 語彙 400 語までで 1 万語読む。(Penguin Readers Level 2) ☐ 150WPM で読める。	☐ Cap Stone Project (校内英語活動大会)	☐ 英字新聞を辞書を使いながら読んで大体理解できる。	☐ ニュース等の時事問題について理解することができる。	☐ 時事問題について英語で会話をすることができる。	☐ 目的に応じた形式で、150 語程度のエッセイを書くことができる。	☐ 6 年間で習得した内容を踏まえて、自己表現をすることができる。	☐ GTEC G6 上位		

【資料2】インタビューテスト

燕中等教育学校 2 学年英語 1 学期ブレ中間インタビューテスト実施要項

①日時：5月16日（水）～5月18日（金）

②形式：1（先生）対1（生徒）

③内容：

- 教科書 Unit0 の part1, Unit1 の各 part1,2,3,4 の中からくじ引きで一つを選び、ヘッドホンで音声を聞いて何も見ないでリピーティング。
- 教科書 Unit0 の part1, Unit1 の各 part1,2,3,4 の中からくじ引きで一つを選び、Retelling。教科書を読んで、考える時間を 30 秒あげます。
その後、教科書を閉じて Retelling して下さい。
- 教科書 P.16 の「日記」から、ある日の出来事を 5 文以上の英文で発表してください。時間の流れにそってでも、ある話題にしばって書いても良いです。
必ず、出来事だけでなく、自分の感想、どう感じたかも入れること。
- こちらから 3 つ質問を英語でします。英語で答えて下さい。

以上の通り、しっかりと練習をして望めば、満点を取れるテストです。

範囲の教科書を中心に、必ず音読練習（リピーティング、オーバーラッピング、シャドーイング）をしてテストにのぞみましょう！

1 学年ブレ中間インタビューテスト 5月18日（木） 1組-4限、2組-3限

- 教科書 P.22,24 から、くじ引きで 1 つ選び、音読する
- 自己紹介を英語でする。時間は目安 1 分以内
- こちらからの英語の質問に対して答える。質問の内容は、それぞれ違います

インタビューテストの採点の観点

それぞれの質問に、1～5 点で評価します。

5 点：自分の意見もしくは質問に対応した正しい内容である。必要とされる情報量を満たし、表現方法も適切である。

4 点：自分の意見もしくは質問に対応した正しい内容である。情報量も満たしているが、表現方法において不十分な点または小さな誤りがある。

3 点：自分の意見もしくは質問に対応した内容である。情報量に過不足がある。または表現方法において不適切な点があるが、応答として一応成立している。

2 点：自分の意見もしくは質問に対応した内容であるが、誤った内容である。または、表現方法に大きな誤りがある。

1 点：質問とは無関係の内容である。または、答えられない。

・全体を通して、アティチュード（態度点）を以下の観点で、1～5 点で評価します。

①積極性：自分の言葉を理解してもらおうと十分に自己表現し、コミュニケーションを持続させようとする意欲

②音声の明瞭さ：適切な大きさの声で明瞭に音読・応答しているか

③反応の自然さ：自然な流れを損なわないスムーズな応答ができていくか

1 学年ブレ中間インタビューテスト 5月18日（木） 1組-4限、2組-3限

- 教科書 P.22,24 から、くじ引きで 1 つ選び、音読する
- 自己紹介を英語でする。時間は目安 1 分以内
- こちらからの英語の質問に対して答える。質問の内容は、それぞれ違います

【資料3】校内スキット(2年次)

2nd Graders' The Final Performance



Original Skit

Class [] No. [] Name []

今までに習った英語や自分で習得した英語を用いて、ヘアで skit(スキット、寸劇)を作ろう！
練習して、何も見ないで、みんなの前で発表しよう。

<Rules>

- 教科書やいろいろな本、プリントなどを参考にしてよいので、自由に場面を設定し、英語で skit を作る。
- skit の長さは、一人 10 文以上×2人、20 文。つまり 10 往復以上の会話を完成させる。
- 教科書のどの部分を真似してもよいし、全くオリジナルにしてもよい。
- skit 作成にあたっては、K 先生、Tk 先生、Tn 先生、A 先生のアド/ボイスを受けてもよい。
- 内容の面白さを狙ってもよいが、下品なもの、日本語で笑わせるもの、特定の友だちや先生、誰かを中傷するもの、うちわめかけなものは避ける。英語が分かる人を見て、誰か見ても笑えるものなら OK。
- 発表は固定した役で、一回でよい。(つまり A さん役は A さん役、B さんは B さん役を一回すればよい)
- 発表は 1 回目は楽しんで見る。2 回目は互いに評価しあう。
- 小道具を用いてもよいが、各自用意すること。不要物は不可。
- 1 回目はビデオに撮って行う。2 回目はそのビデオを見て、相互に評価する。
- 今回の皆さんの発表が、来年の2年生の手本になるので、2年生の鑑大感と思ってがんばろう。

<その他>

- ①文内に、次の語句を必ず入れることー Why ...? / Because ... 一理由を聞いて、それに答える文
- ②Skit の最初に、"This is a school / library / park..." など、場所を表す説明を述べる。(これは 10 往復に入れない。)
- ③Well, ... (ええと...), and (そして...), but (でも...), so (だから...), or(〜かまたは...)などのつなぎことは(接続詞)を適切に使って、自然な会話になるようにする。
→ 今までに習った疑問詞(What / When / How many / How long など)を使っても、会話が盛り上がる
- ④聞き手である友だちがなるべく理解できる文にする。難しすぎる表現や語句は使わない。
どうしても使う必要がある時は、"carpenter, or dakusan" (carpenter, つまり大工さん)あたりに言う。
- ⑤次の観点を満たす Skit にする。
ア、スピードや音量がちょうどよく、聞きやすい イ、内容が分かりやすく面白い
ウ、英語らしい英語である(r, f, v, th に特に気をつけている) エ、ジェスチャーを使っている
→それぞれ 5 点満点、計 20 点をつける。
特に、英語らしさ、ジェスチャーをがんばろう！
- ⑥次のすまきを埋めることは(filler フィラー)を使うと、くつと英語っぽくなります。
I mean... / let me see... / let's see... / like... / uh... / so... / well... / you know...
まずはお気に入りの 2 つ決めて、使ってみよう。
⑦ "Oh, really?" "That's nice." "Wonderful." "Excellent." "I think so, too. / I don't think so."

☆2年生英語の鑑大感、がんばって、すてきなオリジナルスキットを作りましょう！

Evaluation Sheet		Your Name	Your Friend's Name(s)	Your Friend's Name(s)	Comment
(評価シート)					
スピードや音量が よく、聞きやすい。	内容が分かり やすく面白い。	英語らしい1発音だ。 (r, f, v, th)	ジェスチャーを 使っている。	合 計	
A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	5 4 3 2 1	/ 20
Evaluation Sheet					
(評価シート)					
スピードや音量が よく、聞きやすい。	内容が分かり やすく面白い。	英語らしい1発音だ。 (r, f, v, th)	ジェスチャーを 使っている。	合 計	
A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	5 4 3 2 1	/ 20
Evaluation Sheet					
(評価シート)					
スピードや音量が よく、聞きやすい。	内容が分かり やすく面白い。	英語らしい1発音だ。 (r, f, v, th)	ジェスチャーを 使っている。	合 計	
A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	5 4 3 2 1	/ 20
Evaluation Sheet					
(評価シート)					
スピードや音量が よく、聞きやすい。	内容が分かり やすく面白い。	英語らしい1発音だ。 (r, f, v, th)	ジェスチャーを 使っている。	合 計	
A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	5 4 3 2 1	/ 20
Evaluation Sheet					
(評価シート)					
スピードや音量が よく、聞きやすい。	内容が分かり やすく面白い。	英語らしい1発音だ。 (r, f, v, th)	ジェスチャーを 使っている。	合 計	
A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	A 2.1 音速 もつれし	5 4 3 2 1	/ 20

10
Graders' Final Mission Original Skit < a Fair Copy(清書) >

This is a sea.

Who?	Dialog
Nomizu	What's that?
Nomizu	Oh, it's a very big hotate!
Hotate	Hello.
Nomizu	Oh! Hello...
Nomizu	May I ask your name?
Hotate	I'm Mountain-Mouth-Hotate.
Nomizu	I'm Prince Nomizu.
Nomizu	You're very big... Why?
Hotate	Because I'm two hundred years old.
	And I has many kinds of foods.
Nomizu	Oh, I see.
Hotate	What are you doing?
Nomizu	I'm looking for very cutie princess.
Hotate	Oh, really?
	I'm looking for my girl friend, too.
Nomizu	Oh, good luck!
Hotate	Good luck, too!
	~the next day~
Nomizu	Oh! That is Mountain-Mouth-Hotate!
Hotate	Oh! Prince Nomizu!
	I found my girl friend!
Nomizu	I found my princess, too!
	Oh! It's just a time our date!
	Good bye!
Hotate	Good bye.

【資料4】ディベート(5年次)

Affirmative Constructive Speech	
Thank you chairperson and judges. I'm constructive speaker,○○.	
We, of the affirmative side, strongly believe that the Japanese government should adopt a social security system that provides a basic income to all Japanese citizens.	
We have two advantages.	
AD 1	Our first advantage is
	Present Situation
	Effect (solution)
	Importance
AD 2	Our second advantage is
	Present Situation
	Effect (solution)
	Importance
For these two advantages, we should take this plan. Thank you.	

Negative Constructive Speech	
Thank you chairperson and judges. I'm negative constructive speaker,○○.	
We, of the negative side, strongly believe that the Japanese government should not adopt a social security system that provides a basic income to all Japanese citizens.	
We have two disadvantages.	
DA 1	Our first disadvantage is
	Present Situation
	Effect
	Importance
DA 2	Our second disadvantage is
	Present Situation
	Effect
	Importance
For these two disadvantages, we should not take this plan. Thank you.	

[Affirmative/Negative] Attack Speech	
Thank you chairperson and judges. I'm [affirmative / negative] attack speaker,○○.	
I have [] attacks.	
first attack	First, let me attack [AD1 / AD2 / DA1 / DA2].
	As [present situation / effect], they said that...
	However, this is [very vague / not true / not always true / not relevant] because...
	I'll give you one piece of evidence.
second attack	Therefore, [AD1 / AD2 / DA1 / DA2] [is weakly supported / does not stand].
	Second, let me attack [AD1 / AD2 / DA1 / DA2].
	As [present situation / effect], they said that...
	However, this is [very vague / not true / not always true / not relevant] because...
third attack	I'll give you one piece of evidence.
	Therefore, [AD1 / AD2 / DA1 / DA2] [is weakly supported / does not stand].
	Third, let me attack [AD1 / AD2 / DA1 / DA2].
	As [present situation / effect], they said that...
However, this is [very vague / not true / not always true / not relevant] because...	
I'll give you one piece of evidence.	
Therefore, [AD1 / AD2 / DA1 / DA2] [is weakly supported / does not stand].	
(Let me repeat my attack speech.)	
This is the end of my attack speech. Thank you.	

[Affirmative/Negative] Defense Speech	
Thank you chairperson and judges. I'm [affirmative / negative] defense speaker,○○.	
They gave us [] attacks.	
defense against first attack	First, on [AD1 / AD2 / DA1 / DA2].
	They attacked our explanation on [present situation / effect], by saying that...
	However, this is not true because...
	Then, I'll give you further [explanation / evidence].
defense against second attack	Therefore, [AD1 / AD2 / DA1 / DA2] [is strongly supported / still stands].
	Second, on [AD1 / AD2 / DA1 / DA2].
	They attacked our explanation on [present situation / effect], by saying that...
	However, this is not true because...
defense against third attack	Then, I'll give you further [explanation / evidence].
	Therefore, [AD1 / AD2 / DA1 / DA2] [is strongly supported / still stands].
	Third, on [AD1 / AD2 / DA1 / DA2].
	They attacked our explanation on [present situation / effect], by saying that...
However, this is not true because...	
Then, I'll give you further [explanation / evidence].	
Therefore, [AD1 / AD2 / DA1 / DA2] [is strongly supported / still stands].	
(Let me repeat my defense speech.)	
This is the end of my defence speech. Thank you.	